



29 二代海野美盛《吉野春秋図花瓶》一对

明治後期〜大正前期 銀・赤銅・銅／象嵌
各D一五・〇、H三五・〇

右方に満開の桜に囲まれた神社建築群を、左方には紅葉で色づく山々に囲まれた滝を、主に打ち出しと着色処理で表した一对の花瓶である。従来、「春秋図花瓶」という名称で伝えられてきたが、木々の間から屋根を見せる神社建築や途中で折れて落下する滝の様子など、非常に具体性の強い描写であり、その様子が奈良吉野の金峯山寺と不動七重滝を中心とする景色に比定される。

本作の製作経緯は明らかではないが、首部に菊御紋を付けた銀花瓶であるため、もとは御下賜用に作られたのではないかと考えられる。なお、本作のように肩の部分を鋭角に成形する器形は、装飾のない御紋付銀花瓶によく見られる形状である。

二代海野美盛(一八六四〜一九一九)は彫金家・海野盛壽(一八三四〜九六)の実子として東京に生まれ、のちに伯父である海野勝珉からも彫金の指導を受け、絵を酒井道一や河鍋暁斎に学んだ。また、明治二十二年に京都へ赴き、今尾景年に絵を、小倉惣次郎に西洋彫刻を学び、明治三十一年には東京美術学校教授となった。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections